

# ドローン直播で労力軽減

埼玉・嵐山町 実証実験で普及めざす

【埼玉】嵐山町が昨年度に実施した農家アンケートで、特に水田では、このまま耕作を続けられるか不安に感じていると、声が多く挙げられた。

これをきっかけに、同町や農業再生協議会、農業法人などが話し合いを重ね、農業用ドローンを使った水稲直播栽培の実証実験を開始した。

同町で大規模経営を行う(株)らんさん管農の圃場約1・1haで今春、コシヒカリの種モミをドローンで直播きした。作業時間や手間をどのくらい軽減できるか、収量がどうなるか、1年かけて実験を行う。

農業用ドローンでの直播きでは、種モミの表面に鉄粉と焼き石こうをコーティングし、水をまいて酸化させる作業が必要だが、約1週間で作業できるため、通常の苗作りと比べて大幅に時間を短縮できる。また、ドローンで種をまくため、苗箱を運ぶより作業負担が軽減する。

同社の馬場公忠代表理事(78)は「農業用ドローン導入で作業時間と労力を軽減し、人手不足の解消につながれば」と話す。また、同町の中村寧農政課長は「多くの人に作業効率の良さを実感してもらえて、農業用ドローンに触れたことのない人にも知ってもらえる良い機会となった」と話す。

同社は今後、農業用ドローンを本格的に導入する意向で、直播面積の拡大も検討していく。同町も今回の実験をきっかけに、スマート農業の導入が広がることを期待している。



①水稲直播栽培の実証実験に使われた農業用ドローン、②実証実験の様子

